

徘徊SOSネットワーク模擬訓練の開催

年1回
市内全校区
“今年で第10回”

【模擬訓練前日までに】

1. 全体連絡会議

模擬訓練を開催するにあたり、各地域の代表者やSOSネットワーク参加団体、介護サービス事業所、医療機関との情報共有・連携等を図るため、開催する決起集会。



【模擬訓練当日】

2. 警察より情報発信

行方不明者の家族から大牟田警察署生活安全課に捜索願が出されたと想定し、SOSネットワークを通じ徘徊情報が関係団体に発信される。



3. 市役所より情報発信

警察署からの連絡を受け、長寿社会推進課では介護事業所および医療機関へ情報を発信。また、地域福祉推進室から民生委員・児童委員の方々にFAX送信。中央地域包括支援センターから、愛情ねっと登録者へメールでの情報配信。

4. 各校区拠点より情報伝達★

各校区ごとに作成した情報伝達網を活用し、情報伝達を行う。できるだけ「はやく・正確に・末端まで」が目標。



5. 各校区にて捜索・声かけ訓練★

各校区の体制に応じ、捜索および声かけ訓練を行う。校区によって、捜索に重点を置いたり、声かけ訓練に重点を置いたり、スタイルはさまざま。



6. 訓練本部報告会/校区反省会

模擬訓練が終わったあと、本部では訓練結果の速報を行う。各校区でも反省会を行い、「情報伝達ははやく・正確にできたか」「声かけは上手にできたか」など、次年度に向けて検証を行う。



徘徊模擬訓練のこれまでの経過

平成16年 駿馬南校区で初めて開催する

平成19年 市内全域へ広がる ⇒ 地域の取り組みは7校区へ

- 福岡県市長会南ブロックにおいて、福岡県南の市町村で広域連携に向けた取り組みを進めることを提案

平成20年 模擬訓練に向けて認知症の啓発を強化

- 認知症サポーター講座を職域・小地域で開催
- 筑後田園都市推進評議会(福岡県)が主体となって広域ネットワークの整備に取り組むことを確認

平成21年 地域の取り組みが18校区に広がる

平成22年までには、全ての校区が取り組みを実施

平成23年 徘徊模擬訓練を初めて平日に開催

平成24年 福岡県南12市町による「ちくご高齢者等SOSネットワーク」の運用開始(5月)及び熊本県北部(荒尾・南関・長洲)との連携の開始(3月) ⇒ 広域連携がスタート

大牟田市の取り組みの特徴

～校区実行委員会の設立～

声かけ訓練や情報伝達網の再整備、認知症サポーター養成講座など必要となる取り組みについては、各校区それぞれにおいて検討を進め、訓練当日に先立つ準備として各校区で事前に実施する。

実行委員会メンバー（校区によってメンバーは異なる）

- 民生委員・児童委員協議会
- 校区町内公民館連絡協議会
- 校区社会福祉協議会
- 地域交流施設・地域包括支援センター
- 認知症ライフサポート研究会運営委員
- 大牟田市長寿社会推進課

白川校区と白光中学校の取り組み

ほっと安心(徘徊)SOSネットワーク
はい かい も ぎ くん れん

徘徊模擬訓練

in しらかわ 2013



**見守り・声かけ
みんなで支え合う 白川校区**

と き : 9月22日(日) 9:00~13:00
と ころ : 白川小学校 体育館 にて
訓練時間 : 10:00~ 白川校区 全域

協働開催 : 校区公民館連絡協議会、校区社会福祉協議会、校区民生・児童委員連絡協議会
後 援 : NPO法人しらかわの会

お問い合わせ 白川校区徘徊模擬訓練実行委員会 事務局 電話:53-4191

絵:三吉 有里(白光中学校3年生)

ほっと安心(徘徊)SOSネットワーク
はい かい も ぎ くん れん

徘徊模擬訓練

in しらかわ 2013



**「どこに行きよんなさっと?」
...その声を 待ってる人がいる**

と き : 9月22日(日) 9:00~13:00
と ころ : 白川小学校 体育館
訓練時間 : 10:00~ 白川校区 全域

協働開催 : 校区公民館連絡協議会、校区社会福祉協議会、校区民生・児童委員連絡協議会
後 援 : NPO法人しらかわの会

お問い合わせ NPO法人 しらかわの会 事務局 電話:53-4191

絵:山口 蒔乃(白光中学校2年生)

高校生の訓練参加者募集について

(多世代交流による取り組み)

【経緯】

○徘徊模擬訓練は、これまでの10年間の取り組みにより、市内全校区で訓練が開催されるようになるなど、認知症高齢者の見守りや声かけ等に対する住民の意識も高まりつつあります。

○大牟田市では、認知症の普及啓発の一環として、「小中学校の認知症絵教室」を行なうなど、認知症を高齢者のみの問題ではなく、多世代交流による取り組みも進めています。

○新聞報道にあるように、中・高校生が実際に高齢者を保護するといった事例も報告されています。

○模擬訓練が今年で10回目を迎えることから、これを契機に多世代交流事業を一步前進させるため、市内高校生から訓練参加者を募り、地域の取り組みへ参加を促したいと考えています。



【到達目標】

○高校生に、認知症を地域で支え見守る取り組みに関心をもってもらう。

○実際に地域の取り組みに参加することにより、搜索活動や地域活動を実体験してもらう。

○校区の取り組みに、若い世代の考え方を取り入れてもらう。

【取り組みのイメージ】

①地域交流施設にて徘徊行方不明者情報を受け取った後、搜索活動に参加

⇒遭遇しやすいように、「〇〇を中心に搜索を」といった配慮を。

②徘徊者役のサポーターとして同行し、実際の声かけ見守りがどのように行われているかを見聞きする。

③校区反省会へ参加し、感想の発表や意見交換の場を設ける。

※高校生の受け入れ校区については、参加希望状況により、各校区へ依頼させていただきます。折角の機会なので、高校生に訓練参加の実感や地域との触れ合いが持てるよう配慮や工夫をお願いします。